

白 方 の 風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.20
東海村立白方
小学校
2025.9.19
児童数 451人

夏休みが終わり3週間が過ぎました。暑さも彼岸後からはやわらいできそうです。これからの時期は過ごしやすい気候になるため、勉強、スポーツ、文化・芸術活動に集中できます。ぜひ、自分の好きなことに取り組み充実した日々となるよう、学校でも様々な経験や体験ができる機会を設けて参ります。

今月末から来月へかけて1～4年生の遠足が順次行われます。お弁当やおやつの準備など大変お世話になります。生涯にわたって記憶に残る遠足となるよう、安全に最大限の配慮をしながら、仲間と楽しい時間を過ごすことができるよう事前準備を進めて参ります。ご理解ご協力をお願いいたします。

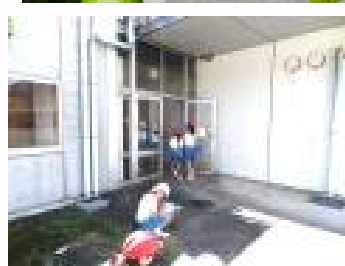
季節の変化を感じる学習

～新たな疑問がわいてきます。～

4年生の理科の学習では、季節による動植物の変化を観察して、動物や植物が、季節による気温や日照時間の違いにより、どういった生態の変化が生じるのかを理解する学習を行っています。夏前に巣作りを始めたツバメがその後どうなったかを観察しました。巣は残っていましたが、巣の中をよく見てみると、ひな鳥や親鳥の姿はありませんでした。巣の周りの泥も乾燥して少しずつ落ちていく様子が分かりました。

桜の葉の様子も観察しました。桜の葉は少しずつ、黄色や茶色い部分が増えてきている様子が分かりました。

気温や日照時間が短くなる時期になるとツバメは姿を消し、桜などの落葉樹は葉が色付き葉を落とすことが分かりました。



こうした学習をすると、姿を消したツバメが何処にいくのか。なぜ、気温が下がり、日照時間が短くなると葉を落とすのか、といった新たな疑問がわいてきます。そのことが今後の学習の意欲につながっていくことになります。

休み時間の避難訓練実施

～いつでもどこでも、自分で考え判断し、自分の命を守る行動がとれるように休み時間に訓練を実施しました。～

1923年（大正12年）9月1日の午前11時58分にマグニチュード7.9、最大震度7（おそらく）の関東大震災とよばれる大きな地震が発生しました。木造建築が多数あった当時は、10万9000棟の家屋・建物が全壊し、10万人以上の方が亡くなったり行方不明になったりしました。さらに地震が12時近くに発生したことで「七輪」や「竈」を使っていた家が多く、東京では130箇所以上で大規模な火災が発生しました。その火災によって、20万棟の家屋が焼失してしまいました。火災になった広さは34平方キロメートルで東京市の4割を焼き尽くしてしまいました。家屋の倒壊、火災による焼失により東京市では、100万人が避難生活をしました。

この大震災の教訓をいかす形で日本の防災対策が進められるようになってきたことから、現在は9月1日を「防災の日」として定め、その日の前後で、避難訓練や防災について学ぶ会などが行われています。過去の地震の教訓から、地震の際は、まず身の安全を確保した後、最初の揺れが収まったら、「火の始末」と「避難経路の確保」「迅速な避難」をすることが基本的な行動の仕方に示されています。

今回の避難訓練では、大きな地震で建物が倒壊する可能性がある想定で、避難訓練を実施しました。さらに、これまであまり実施したことのない「児童が様々な場所にいる休み時間に大規模地震が発生した。」といった想定で訓練を実施しました。各児童は近くの教職員の指示にしたがったり、自分で判断したりして迅速に避難することができました。

